

別紙一 1

基本判定試合及び審判要領

(1) 基本判定試合内容(元立ちは、各道場で人選(高学年)して下さい。選手は、胴/垂の着用不要)

(a) 立会いの位置で立礼後、試合開始位置にて元立ち及び選手が蹲踞で待機し主審の「始め」宣告により赤白同時に切返し、打ち込みを行う。

時間は切返し、打ち込みを含め40秒とする。

・切返し・正面打ち⇒前進して左右面4本⇒後退して左右面5本正面打ち(2回繰返す)

元立ちは、竹刀で受けるのではなく直接左右の面を打たせる。

元に戻らないで続けて打ち込みを実施する。

・打ち込み・正面打ち⇒小手面打ちを繰り返す時間まで行う。

(b) 切返し、打ち込みが終了したら主審の「判定」の宣言で勝旗(赤白)を上げる。

・勝敗は、切返し、打ち込みの総合判定とする。(総合判定基準は下記の通り)

(全日本少年少女剣道大会試合実施要領抜粋)

正面	
副審 選手	副審 選手
x	x
—	—
元立	元立
主審	

(2) 総合評価の着眼点

(a) ただ速く動作ができていいるのではなく、正しく、リズムや拍子を持って動作をしているかを見る。

- ・ 剣道具・剣道着・袴の着装ができていいるか。
- ・ 正しい蹲踞ができていいるか。
- ・ 竹刀の持ち方は、正しいか。(左・右 打ち手になつていいるか)
- ・ しっかりと手首(刃筋)を返し、伸び伸びと大きな切返しができるか。
- ・ 切返しや技を出すとき、左こぶしが左右に動いていいないか。
- ・ その技は、正しく動作していいるか。

(b) 正しくひとつひとつ見るためには、下記のような留意点を観察する必要があるが、少なくとも「総合評価の着眼点」を見て判断する。

① 切返しの留意点

- ・ 竹刀の振り方は、正しいか。
- ・ 足の運びは、正しいか。(退き足が歩み足にならないか)
- ・ 左右の面の打つ角度が、約45度になつていいるか。
- ・ 「正面打ち」のとき、一足一刀の間合から打つていいるか。
- ・ 竹刀の打突部位を正しく打つていいるか。
- ・ 「左右面打ち」のとき、左こぶしが正中線を通り相手の見える所まで上がつていいるか。
- ・ 「正面打ち」のとき、両腕が自然に伸び、左こぶしが中心(みぞおち)に納まつていいるか。
- ・ 最後まで気合と体勢が崩れないか。

② 打ち込み稽古の留意点

- ・ 足さばきは、正しいか。
- ・ 技に適した足さばきができるか。
- ・ 間合取りが適切か。
- ・ 技が正確(気剣体一致)であるか。
- ・ 最後まで気合いと体勢が崩れないか。
- ・ 残心がなされていいるか。